

1945年 8月6日 広島 原爆投下、8月9日 長崎 原爆投下、そして 8月15日 敗戦・・・
わずか 70年前の出来事です。私達は「人として」この日を 永遠に憶えなくてはならないのです。
私は 戦争を知りません。戦争を経験していません。・・・なぜでしょうか？ それは 戦争を経験し、
そのむごさを知っている人達が 二度と戦争をしないよう、必死に平和を守って来てくれたからです。
その努力を 私達は 決して忘れてはなりません。戦争を知らないからこそ 戦争を知るべきなのです。
話を聞き、五官の機能も 五感もすべてを駆使して 想像するのです。70年間 平和であったこと、
今 平和であることを 当たり前と あぐらをかくことなく、毎日の ありふれた生活の中で、今一度
ひとりひとりが 常に 平和の意味に 立ち返り、それぞれ 置かれた場所で 平和を願い 平和を 祈り
平和を つくり出す努力を 互いにし合うべきなのだ と 強く 深く 思わされている この頃です。

私の家では 幼い頃から 毎年必ず 8月15日の正午には 高校野球の甲子園の サイレンと共に
“黙とう” をしました。そして 15日の 夜の献立は 決まって「すいとん」でした。
江戸っ子の両親、特に母は 東京の中心地 新宿区で生まれ育ち、幼い頃、東京大空襲に 遭いました。
目の前で 自分が育った家を失い、町中のすべてが みるみるうちに 焼け野原と変わり果てていく、
その絶望の 暗闇の中で ただひたすら 生きることだけを考える毎日だったそうです。けれども母の
母である 祖母が たくましい精神力の女性で 意欲と希望を抱き続けながら 家族を守り抜いてきた
おかげで、貧しさやひもじさに 苦しむこともなく、母は その あられる愛情とエネルギーの中で、
兄や弟達と共に 周りの人達と 力を合わせ 助け合い 支え合いながら 精一杯 生きてきたそうです。
8月15日、母は 皆と共に 天皇陛下の 玉音放送を聞き、日本が 戦争に負けたことを 知りました。
皆が 敗戦に泣き崩れている時、母は 思ったそうです。「明日から 爆弾が 降ってこないんだ！」と。
そのことが 心の底から嬉しかったと しみじみと言っていました。空から 爆弾が落ちてくる・・・
そんな日常生活を 今を生きる私達には 想像が出来ません。けれども 母は 毎年「すいとん」を作り
戦禍で生きた 自らの経験を 時に淡々と 時に熱く 涙を流しながら 毎年 必ず 私達に 語りました。
「戦争中は 野菜など 入ってなかったけど すいとんは ごちそうだった」と お椀の中を眺めながら
遠い目をして 言っていました。空襲警報が鳴ると 町中の電灯が消され 空が真っ暗になった瞬間に
爆弾が 次々と 降ってくる様子、だから 空襲警報は いつも 怖くて 震え 慌ててしまっていたこと
いつもの 防空壕の中で 先に逃げて来ていた 町内の 顔見知りの煙草屋のおじさんおばさん夫婦が
投げ込まれた手榴弾で 真っ黒に焦げて死んでしまっていたのを 目の当たりにし、あまりの衝撃で
心が しばらく 癒されなかったこと、大きなドラム缶でお風呂を作り 底が熱くなるので 大人用の
下駄を履いて 兄弟で順番に入ったこと、ついに 終戦を迎え、そこからは 周りの大人達が 子ども
達を守りながら 来る日も来る日も 必死になって 復興を目指し 力を尽くして働き続けていたこと、
そして何より 印象的だったのは 敗戦によって 天皇陛下が一番ではなくなり、人々が戸惑ったこと
想像を絶する 悲惨な状況の中で、家族や周りの人々と共に ささやかな楽しみを見つけ 生きてきた
母の 様々な思い出話には 人生の大事な時間を 戦争に奪われてしまったことへの 怒りと憤りが
こめられていました。「決して忘れてはいけないから」と 人間として繰り返してはならないという
祈りをもって8月15日に「すいとん」を作り 戦争を伝えた母が 話の最後に必ず 言っていたのは
「形ある物は壊れ 失ってしまう、人が生きていく中で絶対ということはない、人の心も移り変わる
社会の 価値観も 法律も 文化も変えてしまう」と。戦争を通し、敗戦国日本の激動の日々を 生き
深い悲しみをくぐり抜け、自らの心が 求めたものは “永遠に 変わらないもの” だったそうです。
目に見えないものにこそ 価値を見出す生き方へと はっきりと変わり、「親が子ども達に残していく
ものは、物やお金や財産ではない。あられる愛情、人として生きるための術（教育、礼儀、知恵）、
そして 永遠に変わらない存在（神様）へ想いを馳せ 人を信じ 赦し 愛する心（信仰）を育てること
そう確信して 私達のことを 育ててきた」と。戦争は 人災です。人の心の 最大の悪であり罪です。
母の生き様を心に、70年間の この国の軌跡を想い 平和を守り抜いた先達の遺志を継ぎ、この国の
未来を生きる子ども達のために 神様が創られたこの世界で 二度と醜い戦争を起こしてはならない
ことを 祈り 伝え続けていきたいと思えます。世界中の人の心に 神様の平安がありますように。

『平和をつくる者は 幸いです。その人は 神の子どもと呼ばれるからです。（マタイ 5：9）』（石田 記）